

西播社会保障推進協議会(西播社保協)学習会

安倍改憲路線のなかの社会保障

日時 5月25日(日) 14時～16時
会場 姫路市商工会議所新館 201 研修室
 兵庫県姫路市下寺町 43 TEL.079-222-6001

参加費 無料

講師 神戸大学名誉教授 二宮厚美 先生



神戸大学名誉教授。1947年生まれ。主な著書『日本経済と危機管理論』『現代資本主義と新自由主義の暴走』『日本経済の危機と新福祉国家への道』『新自由主義の破局と決着』『ジェンダー平等の経済学』『保育改革の焦点と争点』(新日本出版社)、『構造改革とデフレ不況』(萌文社)、『自治体の公共性と民間委託』(自治体研究社)、『憲法25条+9条の新福祉国家』(かもがわ出版)、『格差社会の克服』(山吹書店)、『新自由主義か新福祉国家か』(共著、旬報社)、『橋下主義解体新書』(高文研)、『誰も安心できない医療保障へ』『福祉国家型財政への転換』(編著、大月書店)など。

※参加のお申込み、お問い合わせは、TEL:079-281-0123 姫路民商・村原まで

兵庫県保険医協会 姫路・西播支部ニュース

No.201 2014年4月25日発行



発行 兵庫県保険医協会姫路・西播支部 支部長 宗実琴子
 連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル 5F
 兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1807 FAX/078-393-1802

市民公開講座 『モンサント不自然な食べもの』上映会&ミニ講演会 食の安全と医療の安全は背中あわせ



上：ミニ講演会で食と安全について講演する柳澤氏。
 右：親子連れなど広い世代の市民が参加した。

支部は3月29日、姫路商工会議所501ホールで映画「モンサント不自然な食べもの」上映会&ミニ講演会を開催し、会員、市民ら96人が参加した。ミニ講演では兵庫食健連の柳澤尚氏が「食と安全」をテーマに講演を行った。参加者の感想を掲載する。

昨年からTPP参加交渉が本格化する中で、日本の医療、国民皆保険、そして農業の壊滅的状況が危惧されている。特にその中でも「輸入農産物の安全性」に関係するドキュメンタリー映画上映会に参加した。「モンサント社」とは、遺伝子組み換え食品を製造するアメリカ企業で、世界中の遺伝子組み換え食品の90%を製造している。「不自然な食べもの」とは、遺伝子組み換え食品のことを

意味している。日本の農作物が完全開放され、自由化されると、多国籍企業もたらす食事の変化が訪れる可能性が高くなる。

作品では、ベトナム戦争で使われた枯れ葉剤を製造した企業が、遺伝子組み換え食品製造業に変わった歴史も紹介している。促成栽培によるあまりにも均一な大豆の製造や、ホルモン剤注射で成長が促進された牛への不信感を、「取材形式」で詳しく調査している。

輸入される食物に対し、日本政府は安全性を強調しているが、安全性を第三者機関が詳しく調べるほうが良いと感じた。モンサント社の社長は、たった1ドルでもうけなければならないと、食の安全性よりも経済性を重視している。

このドキュメンタリー映画は、フランスでは150万人が鑑賞している。ヨーロッパではアメリカのバイオ産業の中心企業であるモンサント社製の食物輸入に厳しい制限をしている。一方、日本では食料自給率39%をさらに下げかねない、危険性の高いTPP参加に向けて動き出している。

医療と同じように、命に関わる食べ物が、安全性よりも利益優先になってしまってもいいのであろうか？

国産納豆と言いながら原材料の大豆が遺伝子組み換え食材であれば、食の安全性が担保されたとはいえない。農作物の小麦・大豆・トウモロコシで、日本は、ほぼ90%をアメリカに依存している。TPP参加により関税が自由化し、モンサント社製の食物が、日本に自由自在に入る危険性を考えると恐ろしい。アメリカのバイオ産業は、今後日本をターゲットとして発展するに違いない。殺人兵器やダイオキシンで有名だったモンサント社が乗り出した遺伝子組み換え食品が、安全だとどうしても思えない。

さらに日本の米市場に、遺伝子組み換え食品の外国産米が入りかねない。食の安全保障体制を守ることは、人間の健康を守ることだと痛感した。

TPP参加は、日本人の命を守るためにも反対しなければならない。そしてモンサント社のような利益優先企業の遺伝子組み換え食品は、国策として日本国内への参入を止めさせなければならないと強く感じた。食の安全と医療の安全対策は、背中合わせである。【赤穂郡・歯科 白岩 一心】

支部ニュースへぜひご投稿ください

日常診療のことや医科・歯科連携などテーマは自由です。

ぜひご投稿ください。よろしく申し上げます。

お問い合わせは、Tel 078-393-1803 F A X : 078-393-1802

E-mail : arimoto@doc-net.or.jp

担当事務局；有本まで

診療報酬改定研究会 姫路会場に441人が参加

マイナス改定に怒りの声

協会は2014年度診療報酬改定にあたっての改定研究会を県下各地で開催した。

姫路では歯科の改定研究会を3月23日に姫路市民会館で開催し、115人が参加した。医科の改定研究会を3月26日にじばさんびるで開催し、診療所会場には184人、病院会場には142人が参加し、医科歯科合計で441人の参加となった。



改定のポイントを熱心に学ぶ参加者

今回の改定では消費税増税に伴う初再診料などの引き上げがあったが、医科歯科ともに在宅医療などの点数引き下げで実質のマイナス改定となっている。

同一日に同一建物の複数の患者を訪問診療した場合の診療報酬の引き下げや、7対1ベッド入院基本料の厳格化など「入院から在宅」「在宅から介護」が強められている。

研究会参加者からは「このままでは在宅医療を続けられるか心配」などの声が寄せられている。医科診療所会場の司会・情勢報告を行った宗実支部長から「診療報酬の引き上げとともに患者窓口負担軽減にも取り組まなければならない」と署名への協力が訴えられた。

第261回支部幹事会より

3月20日(木) 午後2時30分～ 於 姫路商工会議所

参加 3人

◆情勢と運動対策では、東日本大震災から3年に当たってや、診療報酬改定についてなど議論した。また夢前町の産廃処分場建設問題についてや、今後の支部企画の「憲法学習会」、支部総会記念講演会などについても意見を出し合った。

幹事会には、会員の先生はどなたでもご参加いただけます。ぜひご参加ください。お問い合わせは、Tel 078-393-1803 F A X : 078-393-1802 E-mail : arimoto@doc-net.or.jp 担当事務局：有本まで

